

市町合併

第16回

「合併協議会」 第4回会議を開催

11月29日に、豊郷町役場別館において、第4回の合併協議会会議が開催され、前回提案された「新市の名称について」と「新市の事務所（市役所）の位置について」協議が行われました。その協議の内容については、今号の「広報ひこね」と同時に配られた「合併協議会だより第2号」でお知らせしています。
また、この会議では、「条例、規則の取り扱いについて」と「慣行の取り扱いについて」次のとおり提案され、次回の第5回会議で協議されることになりました。

●条例、規則などの取り扱いは
新市における条例・規則等については、合併協議会で協議・確認された各種事務事業等の調整内容に基づき、「条例・規則等の整備方針」により調整するものとする。

●慣行の取り扱いは

1市章、市民憲章、市の木、市の花、市の鳥、市の歌については、新市において調整する。
2宣言及び表彰については、新市において調整する。
そこで今回は、1市3町の市章や町章、市や町の木、花、鳥、宣言について紹介いたします。

条例・規則等の 整備方針（案）

新市で条例や規則などをどのように整備していくかについて、その方針は以下のとおりです。

- ①合併時からすぐに施行しなければならないもの
市民の権利・利益の保護のために空白期間が許されないもの、合併協議会で協議済みのものなどは、新市の市長職務執行者が専決処分し、最初の議会で報告し承認を得ます。
- ②合併時に施行しないもの
新しい市長の判断で施行する条例や、議員に提出権があるような条例などは、新市の議会の議決を経て施行します。

現在の市章・町章

彦根市
(昭和13年4月制定)



彦根の中心、金亀山の亀甲をかたどり、外側右側に「ヒ」、左側に「コ」、中心に「ネ」を配し、図案化したもの。

甲良町
(昭和52年4月制定)



外郭は亀の甲ら「甲良」を図案化したもので、町民の友情と連帯を表し、中心は「良」を図案化し、円満に治まることを願う。

豊郷町
(昭和41年9月制定)



豊郷の「とよ」を図案化したもので、円形にしたのは町内の和合協力を意味し、上部の両端を左右に出すことで、町の飛躍発展の意味を持たせ、図を斜めに切ることによって交通の要点にあることを表す。

多賀町
(昭和42年1月制定)



多賀町の頭文字「夕」を図案化したもので、円は町の平和と円満を表し、円内に向かった矢は町の向上、発展の勢いを象徴する。

市・町の木、花、鳥

彦根市

市の木 たちばな

市の花 はなしょうぶ

豊郷町

町の木 ウバメガシ

町の花 つつじ

甲良町

町の木 けやき

町の花 藤

多賀町

町の木 杉

町の花 ささゆり

町の鳥 うぐいす

宣言

彦根市人権尊重重都市宣言 核兵器廃絶都市宣言(彦根市) 豊郷町人権尊重のまち宣言 豊郷町恒久平和宣言

甲良町平和都市宣言 多賀町人権尊重の町宣言 多賀町平和都市宣言

12月の日程 第5回「合併協議会」

日時 12月25日(水)13:30～
場所 多賀町中央公民館

会議は原則公開されていますので、傍聴することができます。
問い合わせ先 彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町合併協議会事務局(市役所4階)
☎22-1411(内線429) FAX22-1398

“まち”の姿を見てみよう③

豊郷町

概要

県の中東部に位置し、北と西は彦根市に、東は甲良町と秦荘町に、南は愛知川町に接しています。町域は、鈴鹿山地から流れる犬上川によってできた沖積層の扇状地平野で、総面積は約8km²です。その56・3%が農地で、大半を水田が占めています。ここでは、米作りを中心とした農業に加え、野菜や花きの生産が盛んに行われています。また、豊郷町出身の7代目伊藤長兵衛が地域の住民に奉仕する病院として設立した財団法人豊郷病院は、大正14年(1925)の創立以来、着実に進歩を遂げ、湖東地域医療に重要な役割を果たしています。

歴史的には中山道高宮宿と愛知川宿の中間にある街道町で、街並みは中山道を中心に東西に広がっています。

人口

平成12年の国勢調査では、7、132人でした。昭和50年ごろまでは大きな増減はありませんでしたが、その後同60年ごろまでは増加し、それ以降は減少傾向にあります。

歴史・文化

町の北部には阿自岐神社があり、そ

このコーナーは、市民の皆さんに市町合併や将来の“まち”について考えていた

の庭園は県の名勝に指定されています。また、多くの「近江商人」がこの地から出ており、そのうちの一人、伊藤忠兵衛の旧邸が豊郷町内に現存し、その北隣には彼の業績を記念した「くねなみ公園」が造られています。また、華やかで陽気な「江州音頭」の発祥の地としても有名です。

阿自岐神社

近江鉄道豊郷駅の北約1・5km、安食西集落の外れの田園地帯にあります。今から1、900年余り前に創建されたと伝えられ、延喜式神名帳(平安中期、10世紀)にも名を残すなど、古くから産土神として土地の人々の崇敬を集め、栄えてきました。約8、900m²の神域は木々が茂って風致に富んでおり、神名造りの本殿は、江戸時代前期の寛文4年(1664)の建築と言われています。また、池の中に多くの鳥を配した多島式の池泉回遊庭園は、上古の様



阿自岐神社の境内にある池

式を伝える庭園史上貴重なものとされています。

伊藤忠兵衛旧邸

現在の大手商社の伊藤忠や丸紅の創始者で近江商人の筆頭に挙げられる伊藤忠兵衛は、天保13年(1842)に織維品の小売業を営む「紅長」の家に生まれました。忠兵衛は17歳で近江麻布の行商に出かけ、長崎で外国貿易の盛んな状況に刺激を受けて、我が国の貿易のパイオニアと言われるほどになりました。初代伊藤忠兵衛が暮らし、2代目伊藤忠兵衛が生まれた邸宅が、中山道に面して残っており、ひととき目を引いています。

江州音頭

中山道沿いにある千樹寺は、奈良時代に行基によって創建されたと伝えられる古い寺です。この寺は中世以来たびたび焼失しましたが、そのつど近在の人々の努力で再建されてきました。その落慶供養の余興のなかで「江州音頭」の原形ができあがったと言われています。江州音頭は現在まで多くの人々に愛され続けており、湖国の盆踊りとして定着しています。